

2024年（令和6年）4月～

現時点での構想であり、今後、変更があり得ます。
コース名等は全て仮称です。

令和4年4月18日

「生まれ変わる 山梨大学工学部」

新たな社会に貢献できる工学系人材を育成

- ⇒ 「SDGs」  : 持続可能な社会
カーボンニュートラルのためのエネルギー問題への取り組みなど
- 「地方創生」 : 地方のポテンシャルを引き出し継続的な営みができる社会
- 「Society5.0」 : IoTやビッグデータ、人工知能等の技術革新による新たな社会

新体制

- 7学科を1学科複数コースに再編
 - ・分野間の垣根を低くし、**進路選択が柔軟**となるよう変更
 - ・新コースの設置により進路選択の幅が拡大
- クリーンエネルギー化学コースを新設
 - ・化学の力で**エネルギー問題を解決できる人材**を育成
 - ・山梨大学が有するクリーンエネルギー分野における国内有数の研究実績（燃料電池やエネルギー変換など）を活用し、新たなコースを設置
- 総合工学クラスを新設
 - ・入学後に**進む分野を決定したい**、**進みたい分野がある**が入学後に適性を見極めたい、幅広い工学の知識や技術を学んでから専門の分野に進みたい、というニーズに対応したクラスを設置（出願時に「総合工学枠」を選択）
 - ・総合工学クラス出身の学生が**最優先で履修可能なプログラム**を実施（文理融合教育やアントレプレナー（起業家）シップ教育なども検討）



新入試



- 一括入試の導入による募集人員の弾力化
 - ・成績上位者からコース希望を勘案して合格者を決定
 - ・総定員（365人）の枠内で各コースの募集人員をニーズ等を踏まえて弾力的に設定
- 学校推薦型選抜Ⅰの導入
 - ・調査書・推薦書・小論文・面接等で総合的に評価（大学入学共通テストは課さない）
- 大学入学共通テストで「生物」が選択可能
 - ・大学入学共通テストの理科選択科目が「物理、化学、生物のうちから2科目選択」に変更

新教育



- 工学基礎教育の強化
 - ・**数理・データサイエンス・AI**
 - ・コース・学部の枠を超えた、幅広い専門性を有する教員による授業を実施
- 1年次はクラスに所属、2年次から専門分野ごとのコースに所属
 - ・1年次の基礎教育科目を充実（PBL、キャリア教育、語学教育など）
- 転コース制度等による進路選択の柔軟化
 - ・2年次のコース配属時に条件を満たせば**他コースへの変更が可能**、3年次進級時にも転コースが可能
- 特別教育プログラム（特P）の実施
 - ・希望者は3年次進級時に専門性の高い特Pを履修可能（大学院修士課程までの一貫教育）

○ 工学部の再編イメージ

現時点での構想であり、今後、変更があり得ます。
 コース名等は全て仮称です。

現・工学部

工学部(7学科) [365]

応用化学科 [55]

先端材料理工学科 [35]

土木環境工学科 [55]

コンピュータ理工学科 [55]

機械工学科 [55]

メカトロニクス工学科 [55]

電気電子工学科 [55]

工
学
科

1年次

化学系クラス
【70人程度】

土木環境系クラス
【50人程度】

総合工学クラス
【40人程度】

情報系クラス
【50人程度】

機械電気系クラス
【150人程度】

2年次～

クリーンエネルギー化学コース【40人程度】

応用化学コース【40人程度】

土木環境工学コース【60人程度】

コンピュータ理工学コース【60人程度】

機械工学コース【55人程度】

メカトロニクスコース【55人程度】

電気電子工学コース【55人程度】

Point 本学の強み・
カーボンニュートラル
推進

[]は入学定員
 【 】は募集人員(目安)

Point

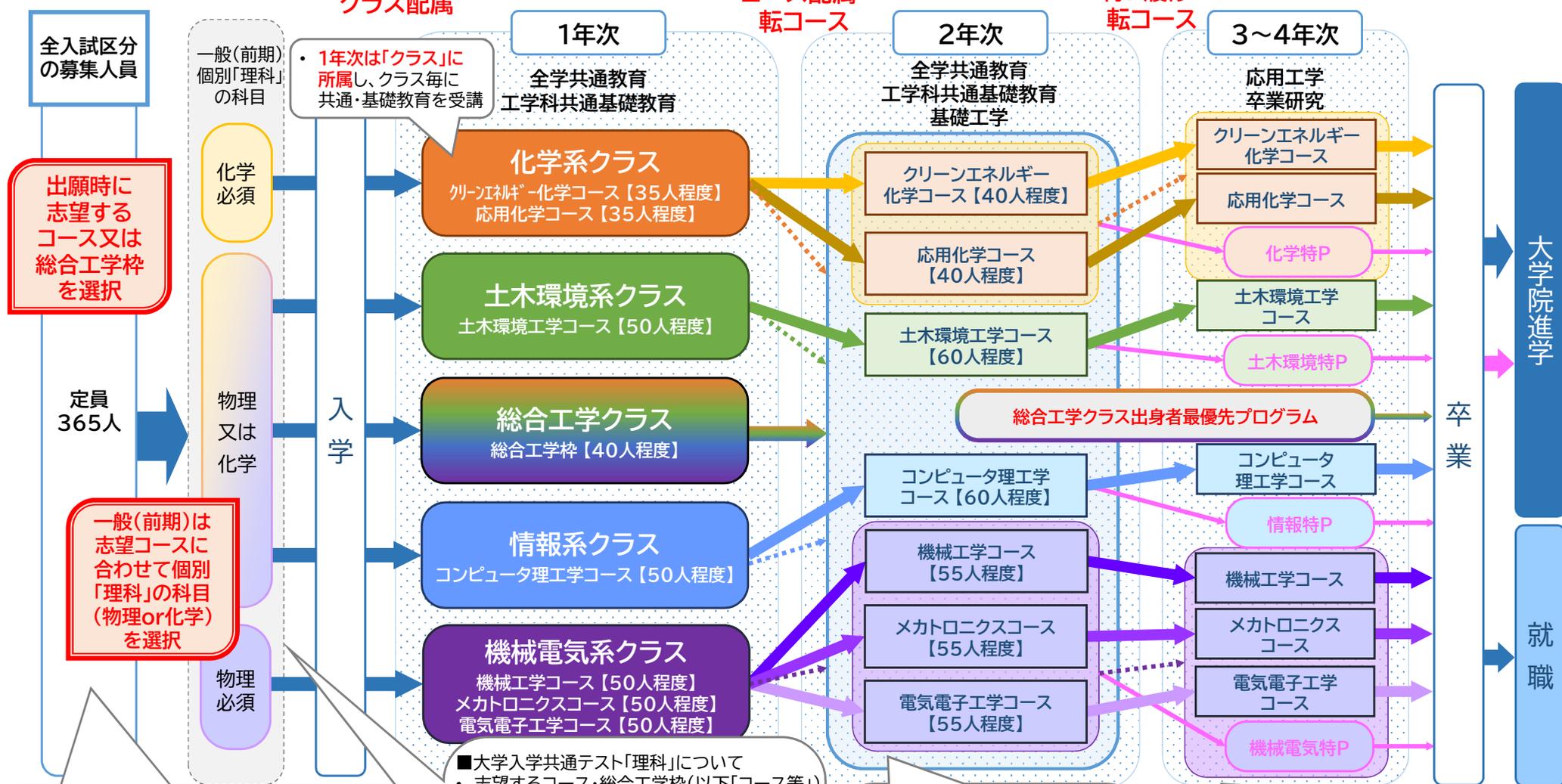
- 多様な進学ニーズに対応
- 総合工学クラス出身者が最優先で履修可能なプログラムを実施

「クラス」で基礎を学び、「コース」で専門を学ぶ
 年次が進むにつれて専門を細分化

○ 新・工学部 学生の所属先をベースとした流れ

現時点での構想であり、今後、変更があり得ます。
コース名等は全て仮称です。

【 】は募集人員(目安)



出願時に志望するコース又は総合工学卒を選択

一般(前期)は志望コースに合わせて個別「理科」の科目(物理or化学)を選択

- 大学入学共通テスト「理科」について
 - 志望するコース・総合工学卒(以下「コース等」)にかかわらず、新たに「生物」が選択可能(「物理、化学、生物」から2科目選択)
- 一般選抜(前期)について
 - コース等に志望順位を付して出願(第3志望まで記入可能)
 - 志望するコース等に応じ、個別学力検査「理科」の科目(物理or化学)を選択
 - 総得点の高い者から順に、志望順位に基づき合格コース等を決定(コース等別に合格発表)

- 2年次進級時にコース配属。所属コースが正式決定(原則として、入試での合格コースに所属)
- 条件を満たせば、合格コース以外への配属も可能(転コース)
- 総合工学クラスの学生は、希望等を考慮し、いずれかのコースへ配属
- 特定のコースへの配属希望が多い場合は、成績等により決定

- 条件を満たせば、3年次進級時にも転コースが可能
- 希望者は、特別教育プログラム(以下「特P」)を履修可能(成績等を基に選抜)
- 特Pは大学院修士課程までの一貫教育を実施し、博士課程への進学も視野
- 上記以外の特P開設も検討中
- 総合工学クラス出身者最優先Pは、2年次以降に開始(文理融合教育・アントレプレナー(起業家)シップ教育等を検討)

- 実施する選抜区分
 - 特別選抜(総合型Ⅰ、総合型Ⅱ、学校推薦型Ⅰ(新規))
 - 一般選抜(前期・後期)
- 選抜区分毎の募集コース等
 - 特別選抜: 総合工学卒を除く各コース(1コースのみ出願可)
 - 一般選抜(前期): 各コース・総合工学卒(複数コース等に出願可)
 - 一般選抜(後期): 総合工学卒のみ

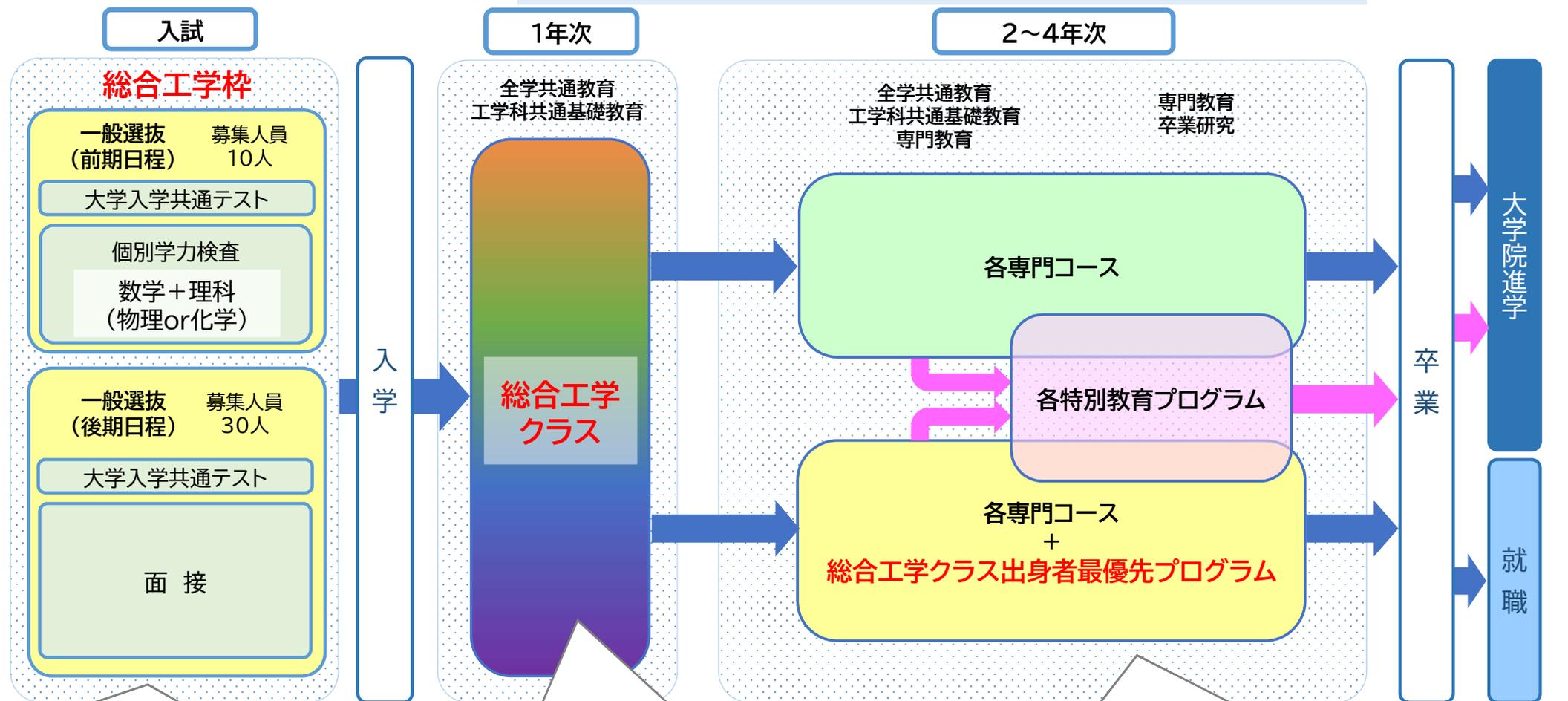
○ 総合工学クラスについて

現時点での構想であり、
今後、変更があり得ます。

以下のような受験生に適したクラスです。

志望する方は、出願時に「総合工学卒」を選択してください(一般選抜のみの募集です)。

- ① 複数の専門分野に興味があり、学ぶ中でじっくりと適性や進路を見極めたい受験生
- ② 工学全般に興味があり、入学後に専門分野を決めたい受験生
- ③ より多くの基礎科目をしっかりと学んだうえで、専門分野に進みたい受験生



- 一般選抜のみで募集
- 前期では出願時に第1志望のみならず、第2・第3希望としても総合工学卒を記入可能
- 大学入学共通テストに加え、前期は個別学力検査、後期は面接を実施
- 前期の個別学力検査「理科」では、物理又は化学のいずれかを選択

- 1年次は総合工学クラスに配属
- 特色ある魅力的なカリキュラムを設定し、1年次のうちにじっくりと適性や専門を見極め、2年次以降のコースに円滑に合流できるシステム
- 例えば、入試で化学を選択していない場合でも、化学系カリキュラムを履修することにより、2年次に化学系のコース(クリーンエネルギー化学、応用化学)を選択可能。物理も同様

- 2年次以降は各専門コースに配属
- 専門コースに所属しつつ、総合工学クラス出身者が最優先で履修できる教育プログラム(2~4年次)を設定。同プログラムは、大学院との接続も視野
- 総合工学クラス出身者最優先プログラムでは、文理融合教育、アントレプレナー(起業家)シップ教育なども検討中
- 総合工学クラス出身者最優先プログラムを履修しつつ、特別教育プログラムも履修可能

Q&A(1)

現時点での構想であり、今後、変更があり得ます。
コース名等は全て仮称です。

Q1. 今の7学科のカリキュラムがどのように変わるのですか？

A1. 新体制では、1つの学科(工学科)にして、全ての学生にデータサイエンス教育を取り入れるなど基礎教育を強化します。そのうえで、専門分野ごとのコースを設け、専門教育を厳選する中で、新たな社会に貢献できる人材育成のためのカリキュラムを構築する予定です。

Q2. 総合工学クラスとはどのようなものですか？

A2. 工学共通の幅広い知識・技術を学びつつ、専門分野に進むための適性を見極めることのできるクラスで、「工学全般に興味があり、入学後に専門分野を決めたい受験生」や「より多くの基礎科目をしっかりと学んだうえで専門分野に進みたい受験生」に適したクラスです。2年次からは専門のコースに所属します。所属コースは、可能な限り本人の希望を勘案し、成績等をもとに決定します。

また、総合工学クラス出身の学生が最優先で履修可能な教育プログラムを設けます。同プログラムでは、文理融合教育やアントレプレナー(起業家)シップ教育などを行うことも検討しています。

なお、総合工学クラスを志望する方は、出願時に「総合工学枠」を選択してください(一般選抜(前期・後期)のみの募集です)。

現時点での構想であり、今後、変更があり得ます。
 コース名等は全て仮称です。

Q&A(2)

Q3. 所属コースはいつ決まるのですか？ 変更は可能でしょうか？

A3. 一般選抜(前期)の場合、出願時に、2年次に所属することとなるコース(総合工学枠含む)の志望順位を第3志望まで記入していただきます。試験の得点順に、志望コースを勘案して合格者を決定します。
 なお、第1志望のみ、又は第2志望までの記入も可能ですが、第3志望まで記入した方が合格の可能性が高くなります。また、2年次進級時に、条件を満たせば志望コースの変更も可能です。
 一般選抜(後期)は、総合工学枠のみの募集となります。
 総合型選抜 I・II 及び学校推薦型選抜 I は、出願時に志望するコースを1つ記入していただきます(総合工学枠は募集しません)。

Q4. 在学中に他のコースに移ることができるのでしょうか？

A4. 2年次進級時に1年次に所属しているクラスから派生するコース(入試で合格したコース)に所属することが基本となりますが、条件を満たせば他のコースに進むことも可能です。
 総合工学クラス所属学生(1年次)は、2年次から専門のコースに所属します。
 また、3年次進級時にもコース変更(転コース)が可能です。なお、変更にあたっては、成績等の条件を満たすことが要件となります。

Q&A(3)

現時点での構想であり、今後、変更があり得ます。
コース名等は全て仮称です。

Q5. 学校推薦型選抜Ⅰとはどのような選抜方法ですか？

A5. 大学入学共通テストや個別学力検査は課さず、調査書、多面的・総合的な評価のための申告書、学校長推薦書、小論文、口述試験、面接により総合的に評価します。

また、現在実施している総合型選抜Ⅰ・Ⅱも総合工学枠を除く全てのコースで実施します。

Q6. 入学定員や試験科目は決まっているのですか？

A6. 工学部工学科の入学定員は、現在の工学部7学科の入学定員(365人)と変更ありません。

選抜区分ごとの募集人員は現在検討中ですが、総定員(365人)の枠内で、各コースの募集人員を二・三等を踏まえて弾力的に設定する予定です。

試験科目は、全てのコース等において、大学入学共通テスト「理科」の選択科目が「物理、化学、生物から2科目選択」に変更となります。一般選抜における個別学力検査の試験科目に変更はありません。

一般選抜(前期)の個別学力検査「理科」は、以下のとおり科目を選択する必要があり、注意が必要です。

- ・ クリーンエネルギー化学コース、応用化学コースを志望する方 → 化学
- ・ 機械工学コース、メカトロニクスコース、電気電子工学コースを志望する方 → 物理
- ・ 土木環境工学コース、コンピュータ理工学コース、総合工学枠を志望する方 → 化学・物理のいずれか

Q7. 現在、工学部には女子学生は何人くらいいますか？

A7. 工学部では200人程、大学全体では1,400人以上の女子学生が学んでおり、誰もが学びやすい環境づくりに取り組んでいます。